

頸椎症性脊髄症

頭の病気ではないと言われ、それだけで「もう大丈夫」と思うのか。でも、首の病気がある。大変です。

Fさん、78歳。いつからかはっきりしないが、両手足がしびれ、歩きにくくなったように悩んでいた。しびれといえば、この頃は顔も少し変である。で、肩や首の痛みで通院している所で相談してみた。そこで、「顔もしびれるなら、脳の病気に違いない」と、さんざん脅かされたらしい。

手足のしびれは、両側とも比較的広い範囲だ。手根管症候群などの末梢神経障害（まっしょうしんけいしょうがい）にみられる限局性のしびれではない。だが、足はともかく、両手がしびれるとなれば、まずは脳の病気ではあるまい。でも、顔は、脳の病気でも両側の口の周りにしびれが出ることもある。念のため、頭部MRI（磁気共鳴画像）で検査したが、年齢相応の脳委縮があるだけで異常はなかった。

Fさんの顔のしびれは、口の周りではなく顎（あご）や顔の周辺にあるようだ。そうか。手

足がしびれて、軽い歩行障害もあるという。となれば、「頸椎症性脊髄症」は否定できない。加齢による頸椎の椎間板や骨の出っ張りや脊髄が圧迫される病気だ。顔の知覚（ちか覚）に関係している三叉神経核が脳から脊髄まで広がっている。そこが圧迫されて、顔のしびれも起きたのかも。

ところで、頸椎症脊髄症というのは、頸椎の変形が進む高齢者では多い病気だ。もともと、日本人は、脊髄の通っている脊柱管が狭いとされている。足腰が弱って転倒などすれば、ひどい脊髄症を起こしやすい。

脊髄の神経は、脳と同じで、一度ダメになれば再生しない。軽いうちに病気を見つけて、適切な治療や生活指導が欠かせないのだ。というのに、すっかりルンルン気分になって、お尻の落ち着かないFさん。今から整形外科の先生に診てもらおうのですよ。

（石黒修三||いしぐろクリニック・脳神経外科専門医…7/5北國新聞掲載）